

# 水晶体囊拡張リング(CTR)の研修会を受講して

眼科 もちじ 美ほこ  
持地 美帆子  
つじなか あいなか  
辻中 愛佳



白内障手術の合併症の一つにチン小帯断裂というものがあります。水晶体はチン小帯と呼ばれる細い無数の糸と、水晶体を包んでいる嚢と呼ばれる袋の組織で支えられています。イメージはハンモックのようなものと考えたと想像しやすいかもしれません。そのハンモックの紐がちぎれた状態が眼で起こった病態がチン小帯断裂です。ご高齢の方、糖尿病や緑内障をお持ちの方、過去に眼のレーザー治療を受けられた方などに比較的多く起こる可能性のある合併症の一つです。

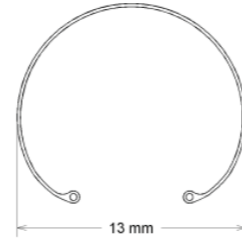


図1 実際のCTRの形状 (HOYA CTR添付文書より抜粋)

水晶体囊拡張リング(capsular tension ring、以下CTR)は、チン小帯脆弱やチン小帯断裂を有する患者さんにおける白内障手術において、手術の安全性を高め、より良い術後成績を得る目的で使用される医療器具です。

CTRの使用に当たっては、添付文書およびガイドラインをよく読み、その内容に従うこと、また、白内障手術に習熟した術者が、日本眼科学会の指導下で製造販売業者等が実施する講習会を受講した上で、使用する必要があります。

CTRの講習会は年に1回程度、眼科の大きな学会の日に合わせて実施されており、今回我々は平成30年10月11日から10月14日に東京国際フォーラムにて開催された講習会に参加しました。

CTRが使用可能になることで、チン小帯断裂例において安全にかつ長期的に安定した状態で眼内レンズが眼内に固定できる可能性があると考えます。よって、特にご高齢の方が多い島根県においては、当院でのCTR併用白内障手術の施行件数の増加が見込めることで、患者さんにとって大きなメリットになり得ると思えます。

今後、我々が白内障手術を施行していくうえで、CTRが必要な症例に対して適切に利用し、術後長期にわたり患者さんに喜んでいただけるように頑張っていきたいと思えます。

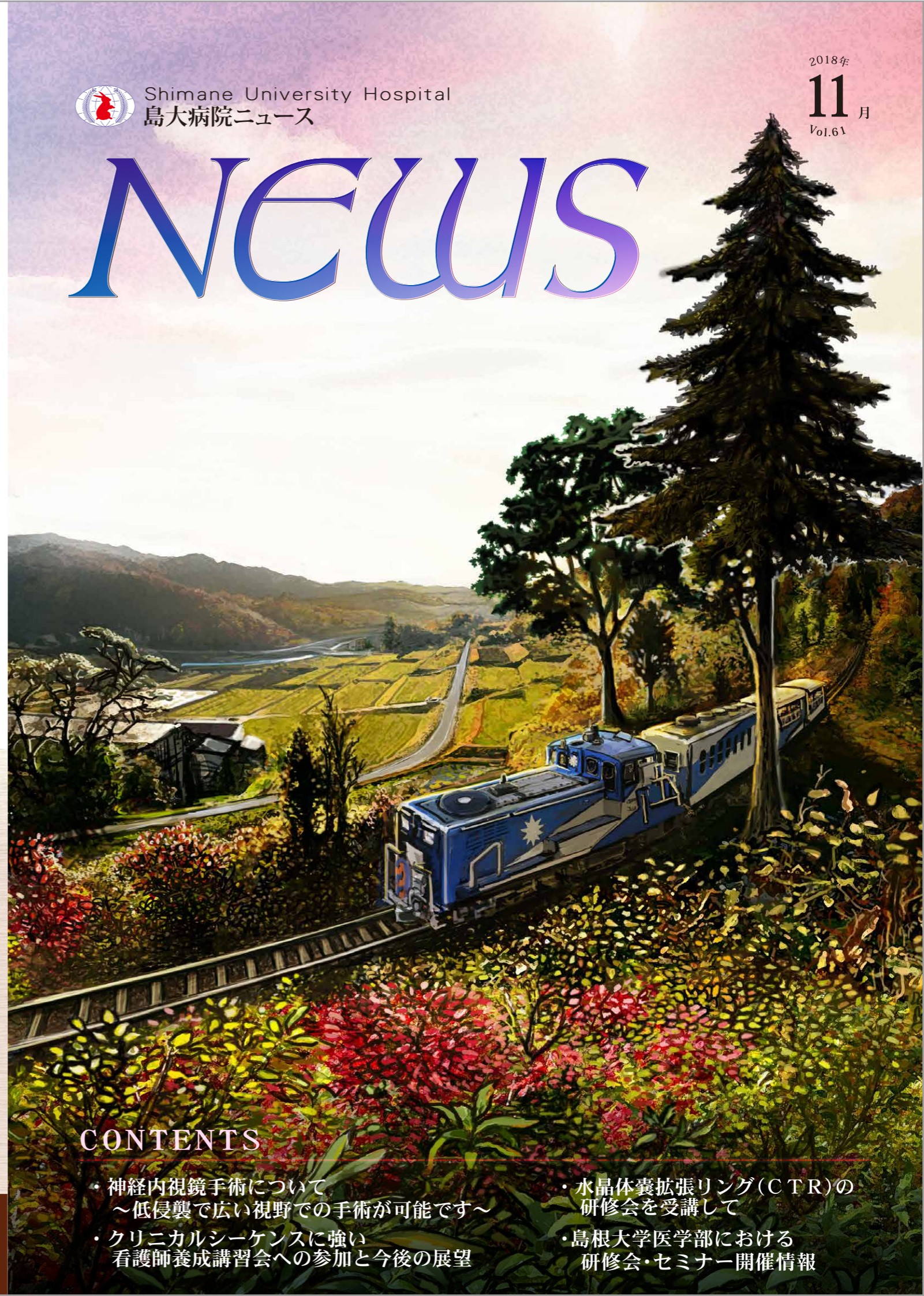
## 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

11月15日～12月14日 対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
11/15(木) 9:30～11:30	平成30年度 島根県がんピアサポーター相談会	島根大学医学部附属病院 外来中央診療棟3階 がん相談支援センター	一般	島根大学医学部附属病院
11/18(日) 15:00～17:00	不安と睡眠に関して大切な知識を増やしてみませんか：パニック症をはじめ神経症圏の最近の内容も含めて 島根大学医学部 精神医学講座 橋岡 禎征 講師 高知大学教育研究部医療学系 臨床医学部門 保健管理センター 教授 井上 顕 先生	島根大学医学部 基礎研究棟6階セミナー室	一般 医療 本学	島根大学医学部法医学講座
12/5(水) 14:00～16:30	第27回日本DNA多型学会学術講演会シンポジウム 島根には本物がある ～島根のDNA多型～ ・「宍道湖のワカサギ分布南限個体群は生き残れるか？」 島根大学 生物資源科学部 荒西 太士 教授 ・「出雲の棚田につながるイネの歴史」 株式会社ジェネテック・東海大学海洋学部 講師 花森 功仁子 先生 ・「現代出雲人と出雲神話をつなげるゲノムDNA研究」 国立遺伝学研究所 集団遺伝学部門 教授 斎藤成也 先生	★松江イングリッシュガーデン 多目的ホール	一般 本学	島根大学医学部法医学講座
12/14(金) 18:15～19:45	2018年HIV/AIDS講演会 誰でもできるHIV/AIDSケア 神戸大学病院 感染症内科 教授 岩田 健太郎 先生	島根大学医学部 臨床大講堂	医療 本学	島根県健康福祉部薬事衛生課 島根大学医学部附属病院 島根大学医学部医師会

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

# NEWS



## CONTENTS

- ・神経内視鏡手術について  
～低侵襲で広い視野での手術が可能～
- ・水晶体囊拡張リング(CTR)の  
研修会を受講して
- ・島根大学医学部における  
研修会・セミナー開催情報
- ・クリニカルシーケンスに強い  
看護師養成講習会への参加と今後の展望





## 神経内視鏡手術について ～低侵襲で広い視野での手術が可能です～

脳神経外科 かんばら みずき  
神原 瑞樹

内視鏡といえば上部・下部消化管内視鏡(胃カメラや大腸カメラ)、また胸腹部の手術で行われる胸腔鏡・腹腔鏡などが思い浮かぶでしょう。実は頭蓋内疾患に対しても、近年内視鏡を用いての手術が行われています。

代表的なものとしては脳出血・水頭症・頭蓋底腫瘍などです。

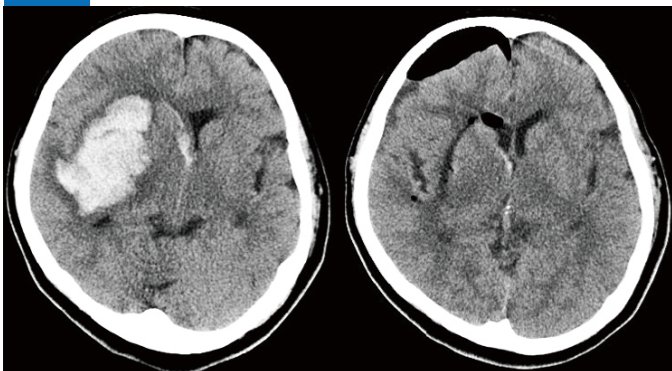
脳出血の手術は大きく開頭して顕微鏡下に手術することが一般的です。内視鏡を用いる場合には頭蓋骨に一円玉程度の穴を開け、そこから内視鏡を頭蓋内に挿入して血腫を吸引除去(写真1)するため、傷も小さく済んで術後のリハビリテーションも進みやすい利点があります。

また水頭症については脳室腹腔短絡術(VPシャント術)や腰椎腹腔短絡術(LPシャント術)という人工の管を留置する手術が一般的ですが、松果体部や第3脳室内の腫瘍、中脳水道狭窄や小児先天性水頭症等、閉塞性水頭症の病態によっては、内視鏡を用いて脳室壁(第3脳室底)にバルーンで穴をあける(第3脳室底開窓術、写真2)ことで髄液の流出路を確保し、人工物を留置しなくても水頭症を改善することが有効なこともあります。

その他にもこれまでの顕微鏡手術では術野の裏が見えない部分でも、内視鏡を挿入して裏側を確認することが可能です。また今では頭蓋底の腫瘍等を、鼻から内視鏡を挿入して摘出することも行われています。

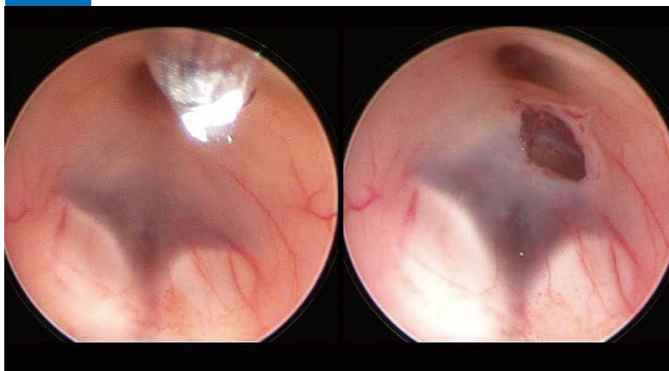
もちろん従来の手術方法が好ましいこともあります。出来る限り患者さんに負担が少なく安全な手術をお勧めしています。

写真1



右被殻出血に対して内視鏡下で血腫除去。  
左:術前、右:術後  
(脳神経センター大田記念病院の実施症例)

写真2



閉塞性水頭症に対して、内視鏡下で第3脳室底開窓術を施行。

## クリニカルシーケンスに強い看護師養成講習会への参加と今後の展望

看護部 C病棟5階 うへだ ゆきな  
上田 幸奈

平成30年2月にがんゲノム医療中核拠点病院が新たに指定され、当院は3月14日にがんゲノム医療連携病院に指定されました。がんゲノム医療を本格的に実施するため、がん遺伝子外来を7月から開設し県内外から患者さんが来院されています。外来ではクリニカルシーケンスを行い、その結果に基づいて、各専門家がチームとして会議を行い、検査結果をもとに推奨される治療法が検討されています。日々患者さんの近くにいる看護師が、患者さんに検査結果をよりわかりやすく伝えるレポートを作成し、そのチームの一員として参加することは重要視されています。

今回の研修では、クリニカルシーケンスの基礎知識を学びアクティブラーニングによる事例検討を行い、実際にクリニカルシーケンスレポートの作成を行いました。全国各地から集まった、がん遺伝子治療に携わる看護師や医療関係者との意見交換もあり、今後の方向や課題を明確にすることができました。そしてがん遺伝子外来の看護師の役割について認識を深める機会となりました。クリニカルシーケンスは高額な検査でありながら、必ずしも患者さんが望む結果が出るとは限らないことや、場合によっては高額な治療になることなど、経済的・倫理的問題も多く含まれます。

今後はがん遺伝子外来の看護師として、患者さんが今後の治療を選択するという意思決定を支え納得できる治療を選択するためインフォームドコンセントの場への同席はもとより、多職種と十分に連携を図りたいと思います。

国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)  
革新的がん医療実用化研究事業  
「がんゲノム個別化医療の実用化に向けた  
遺伝子診断共通カリキュラム構築と  
教育・研修プログラムの実証的開発研究」班

**クリニカルシーケンスに強い  
看護師養成コース講習会**

**開催日** 2018年 9月16日 (日)  
**会場** AP市ヶ谷 Cルーム  
**プログラム**

- 10:00 - 10:10 挨拶: 近畿大学 西尾和人 (研究代表者)
- 10:10 - 10:35 事前問題
- 10:35 - 12:35 講義
  - ・ 講義 1: クリニカルシーケンスに必要な基礎知識-用語解説を中心に 近畿大学医学部 西尾和人
  - ・ 講義 2: クリニカルシーケンスレポートとは 近畿大学医学部 坂井和子
  - ・ 講義 3: 二次的所見が疑われたとき (仮) 三重大学医学部 中谷 中
  - ・ 講義 4: クリニカルシーケンスチームにおける看護師の役割 日本看護協会 神戸研修センター 菅野かおり
- 12:35 - 13:30 昼食休憩(お弁当の用意がございます。)
- 13:30 - 15:30 アクティブラーニングによる事例の検討  
-よりわかりやすいレポートに仕上げよう。
  - ・ 事例 1 (全員)
  - ・ 事例 2 (全員)
  - ・ 事例 3 (全員)
- 15:30 - 16:30 コンセンサスレポートの作成 (全員)
- 16:30 - 16:55 事後問題 アンケート
- 16:55 - 講評

参加費 無料

お問い合わせ・お申込み先  
クリニカルシーケンスに強い看護師養成コース  
講習会運営事務局  
公益社団法人日本臨床腫瘍学会 (担当: 西澤)  
TEL 03-6809-1250 / MAIL jsmo@jsmo.or.jp

JSMO



# ご報告

島大病院ニュース 2018年11月

## 病院ボランティアコンサートを開催しました

当院では、患者さんやご家族のみなさんに心なむひとときを過ごしていただけるよう、定期的に「病院ボランティアコンサート」を開催しています。

去る10月5日(金)19時より、病院1階待合ホールにて、出雲ロータリークラブ主催の出雲楽友協会音楽家会員による「ヴァイオリン、フルートとファゴットによるコンサート～弦楽器と木管楽器による世界一小さなオーケストラ～」が開催されました。

クラシックの名曲から映画やドラマの主題歌など、様々なジャンルの曲が奏でられ、患者さんやご家族の皆さんは、優雅な音色のハーモニーを間近で存分に楽しんでおられました。楽器紹介では、楽器の説明とともに、その楽器の魅力や特徴を存分に引き出すような曲を演奏され、それぞれの楽器の特性を満喫することができました。

後半の唱歌・童謡のメドレーでは、皆さん思い思いに口ずさみながら鑑賞され、アンコールでは手拍子や拍手が沸き起こり、和やかな初秋のひと時となりました。



### 今後の予定

時間：19時～  
場所：病院1階 待合ホール

問合せ先 医療サービス課 TEL:0853-20-2068

- ♪ 11月16日(金) 創作朗読楽団「Repos (ルポス)」
- ♪ 12月7日(金) 島根大学 混声合唱団
- ♪ 12月21日(金) 島大病院木管五重奏団 おんぼらーと
- ♪ 1月18日(金) 出雲邦楽会



平成30年11月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL:0853-20-2068 FAX:0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



# ご報告

島大病院ニュース 2018年11月

## 島根県院内感染制御ネットワークが立ち上がりました!

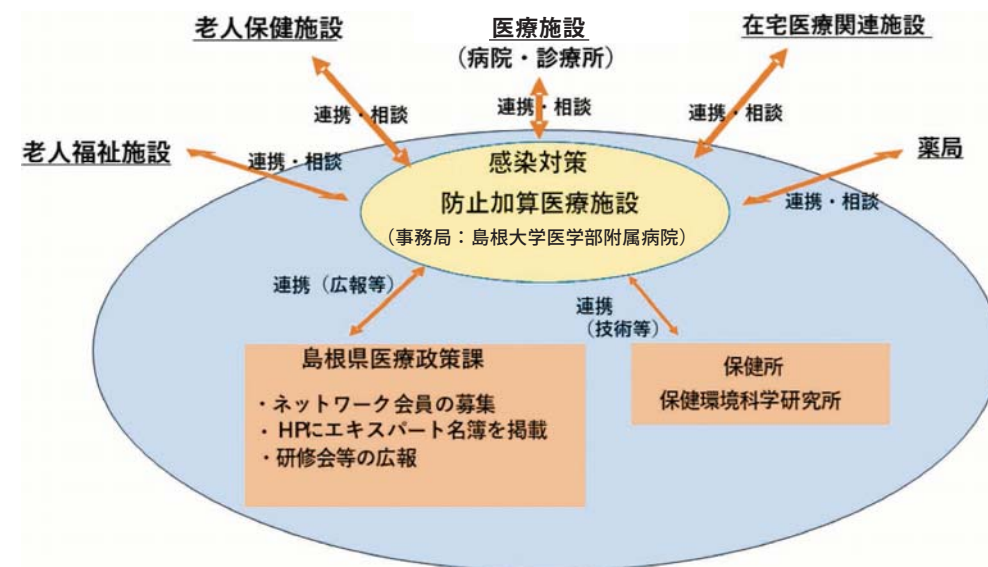
インфекションコントロールドクター 感染制御部 感染認定看護師  
さの ちあき 佐野 千晶  
さかね けいこ 坂根 圭子

当院の感染制御部は、患者さんが安心して療養していただけるように院内感染制御の仕事を行っています。以前より、病院内の感染制御について、県内の4つの病院とグループを組み、定期的な相互チェックや外部専門家による院内ラウンドを行っています。しかし、近年増えているESBL、MRSAなどの薬剤耐性菌は、感染症といった病気の場合もありますが、保菌という病気ではない状態の方から、市中や病院外において、周囲へ拡大伝播しています。



そこで、感染制御に関するマンパワーや知識、研修機会を、島根県全体で活用できないものかと考えました。この構想から約1年程度、関係者と話し合いを重ね、本年9月に、島根県をハブとし、本院感染制御部を事務局とした「島根県院内感染制御ネットワーク」が、立ち上がりました。このネットワークは、病院、在宅医療、介護施設など、人が施設間を移動する機会が増えている現状から、医療施設内の院内感染対策を中心とし、島根県全体で感染制御について連携・支援を行う体制を構築することを目的としています。現在はコアとなる感染症専門家を擁する病院の参加を受け付けている段階ですが、幸いに、県内約9割の病院にご賛同ご参加いただきました。まだ立ち上がったばかりのよちよち歩きのネットワークですが、島根県全体の感染制御の質のボトムアップを目指していきたいと思っておりますので、皆さんのご協力・ご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 島根県院内感染制御ネットワーク組織図



平成30年11月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL:0853-20-2068 FAX:0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# ご報告



# ご報告

## in三瓶 新人看護職員リフレッシュ宿泊研修

看護部長 かんだ まりこ  
神田 眞理子

新人看護職員は、入職して半年となり職場環境にも慣れ、社会人として医療チームの一員としての自覚をもち毎日を過ごしています。徐々に看護実践できる幅も広がっていますが、まだ不安や緊張の日々です。

そこで、職場を離れ新人同士の親睦を図り、仲間意識を深めることを目的に、9月9日・10日の1泊2日で、国立三瓶青少年交流の家にて新人看護職員リフレッシュ宿泊研修を行いました。2日間ともあいにくの雨天で、自然とふれあう野外散策はできませんでしたが、

2日目は、SAP(sanbe adventure program人間関係トレーニング)や、バウムクーヘンづくり(炭で火をおこして竹に生地を塗って焼く)を行いました。初日の夜は、交流会を開催し、ランキングゲームで楽しく盛り上がりました。

参加者からは、「身体を動かすことでリフレッシュできた」、「他部署の同期と話す機会が多く、リラックスしながら親睦を図ることができた」、「役割分担しお互いに声を掛け合いながら協力していくことが、実践にも活かそうと思った」などの意見もあり、2日間をとおして同期との交流が図れ、今後の活力になったのではないかと思います。



役割分担して最高のバウムクーヘンができた。



チーム内で情報共有し、協力し合うことでより良いものが作れる。助けあいも大切。声かけも大切だと思った。



皆で一つのものを一緒に達成することの楽しさが味わえた。



## 「おむつの基本的なあて方について」 ナーシング・アテンダントを対象に研修を行いました

看護部長 かんだ まりこ  
神田 眞理子

看護補助者(ナーシング・アテンダント)も看護チームの一員として連携を図りながら患者サービス、看護の質向上を目指して、日々の看護業務を行っています。

今回、日々の業務で行っている排泄ケアの『おむつの基本的なあて方について』、ナーシング・アテンダント対象の研修会を行いました。研修内容は、おむつフィッターの資格をもっている看護師が中心となり、モデル人形を使い、おむつの選び方、男性・女性それぞれのあて方、漏れ防止の為のおむつギャザー一部の立て方、関節可動域を妨げない為のあて方などの説明がありました。

その後、患者役と介助役のペアとなり実際におむつをあて体験演習を行いました。研修後、ナーシング・アテンダントからは、「看護師と一緒にいる時に患者さんに少しでも快適なおむつ交換を手伝うことができる」「おむつをされる側の気持ちになれた、患者さんへの言葉かけも配慮していきたい」「仕事でも家庭での介護にも活かせる」など、手技だけでなく患者さんへの対応等についても学ぶことができるとの意見があり有意義な研修でした。

長時間用パッドのあて方



★ポイント★  
パッドがギャザーの外にはみ出していないか、ギャザーがねじれてあたっていないかを確認するだけでも漏れ防止に繋がります。パッドがはみ出していたら、ギャザーの中に指で押し入れてOKです。

テープは下(左右)から止めます。最後におむつのギャザーの中にパッドがきちんと収まっていることを確認します。





# ご報告



# ご報告



## 看護管理者宿泊研修について

看護部長 かんだ まりこ  
神田 真理子

中間管理職に必要とされるスキル(人間的成長、専門的知識、対人的能力、概念化能力)の向上を図り、看護管理上の問題や悩みなどを共有することで、明日からの看護管理への鋭気を養うことを目的とし、昨年度から奥出雲の玉峰山荘で看護管理者宿泊研修を行いました。

その中で、「日頃感じていることや悩みが共有でき、よい時間が過ごせた」、「横の繋がりが強まり、親睦が深まった」と好評でしたので、今年度も10月27日・28日の2日間の日程で、第2回看護管理者宿泊研修を企画し、昨年度同様に奥出雲で行いました。

1日目の講演会では『目標に向かってチームとしての取り組み～奥出雲の棚田景観～』についてのお話を聞き、グループワークを行いました。2日目は、金言寺の大イチョウの木や、奥出雲おろちループの紅葉を見ることができ、自然の中でリフレッシュできました。

看護師長は日々のベッドコントロール、患者・家族への対応や勤務管理などに追われ、部署間で看護を語る時間が減っている現状があります。また、今年度より新しく看護師長となったメンバーも多く、2日間の研修を通して改めて看護師長間の横の繋がりを深めることができ、お互いに情報交換し合い自部署の看護を考え、あるべき姿に向かってどう取り組んでいくか考えていくことができました。



## 環境整備ボランティア活動を行いました

会計課施設管理室

9月29日(土)に実施した環境整備ボランティア活動(本院職員によるボランティア)のご報告です。

今回が4回目となる看護部職員を中心とした看護師宿舍周りの草刈ですが、当日はあいにくの小雨となり、雨が強まる予報でしたが、宿舍周りをきれいにしたいとの思いから実施することになりました。

9時からの作業は、刈払機や鎌を使っての除草と刈った草をビニール袋に入れる作業の繰り返しで、幸い雨もあまり強くない中、10時には当初の予定どおり宿舍周りほぼ全てをきれいにすることができました。その後、草を集積したビニール袋を廃棄場所へ運ぶ力作業は、男性看護師を中心に行いました。

以上が神田看護部長はじめ看護部職員等総勢45名による作業の報告です。

看護部では、今後も看護師宿舍の美観を維持するため、環境整備ボランティア活動を行っていきたく思いますので、ご協力方よろしくお願いたします。





# ご報告



# ご報告

## 第15回 島根大学医学部附属病院関連病院長会議を開催

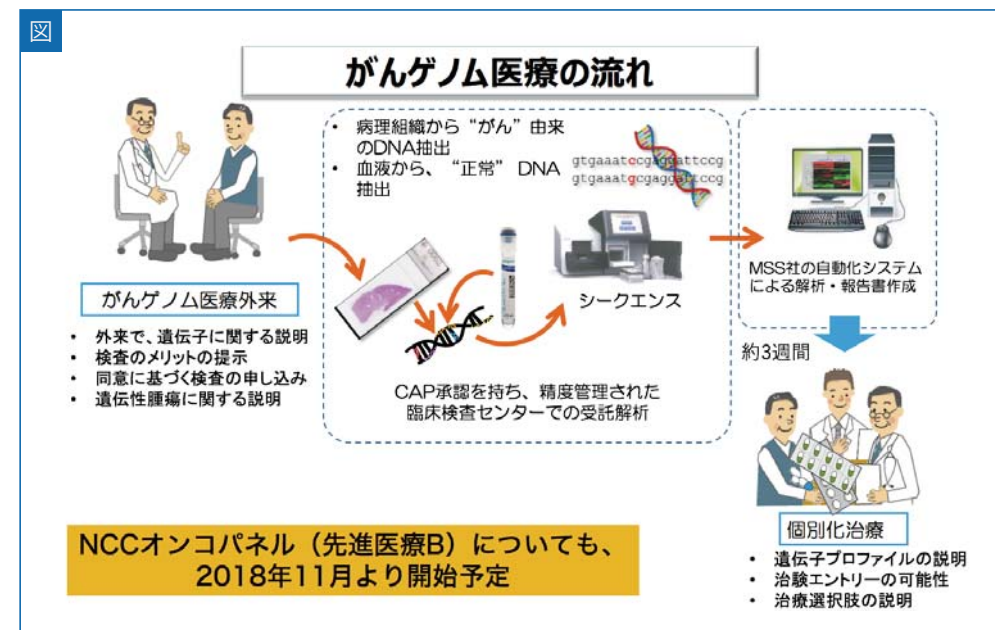
10月25日(木)18時からニューウェルシティ出雲において「第15回島根大学医学部附属病院関連病院長会議」を開催しました。

この会議は、当院への患者紹介や当院からの医師の派遣等を通して関係の深い病院・診療所との意思疎通を図ること、また地域医療に貢献することを目的として設置され、毎年1回開催しており、今年で15回目を数えます。会議には、島根県内52関連病院の病院長等と、井川病院長を始めとする当院関係者45名が出席しました。



冒頭で井川病院長から挨拶があった後、「教育・研修」、「診療体制」、「診療」、「先進医療」、「臨床研究」という題目に分け、それぞれ地域医療支援学講座、卒後臨床研修センターやしまね地域医療支援センターの取り組み、外傷外科医養成研修事業やSurgical training、その他がんゲノム医療(図)などの診療、先進医療及び臨床研究に対する現状や取り組み状況等について報告が行われました。

最後に、井川病院長より当院からの医師派遣の現状や今後の方針について、また当院の運営状況についてお伝えし閉会しました。



## RUN伴しまね2018を開催しました

リハビリテーション部 作業療法士 さとう ちあき 佐藤 千晃

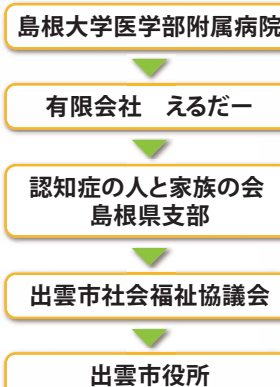
10月21日(日)にRUN伴しまね2018が開催され、参加者や支援者の方々113名が参加されました。イメージカラーのオレンジTシャツを着て、島根大学医学部附属病院から中継地点を経由しながら出雲市役所まで襷(たすき)を繋ぎました。

RUN伴とは、認知症の人と伴に生きる社会を目指し、認知症の人、家族、支援者、一般市民が協力し合い、1本の襷をつなぎながら、ゴールを目指すイベントで、2011年より全国各地で開催されています。本年度で第8回目を迎えますが、島根県では初の開催となりました。趣旨に賛同した有志が実行委員会を立ち上げ、約1年間準備を進めて参りました。

RUN伴は、ただ単に『走るイベント』ではなく、この活動を通して、参加者・家族・支援者・一般市民がそれぞれの立場で認知症・認知症の方を理解するきっかけ作り、参加者の方も次の第一歩へ踏み出すきっかけ作りを目指しております。

来年も規模を拡大して開催する予定となっておりますので、ぜひ皆さんも趣旨賛同いただければご参加ください。

### 経路





# ご報告



# ご報告



マルメ ストール・トリイ



廣瀬教授(右)とPHCにて

## スウェーデンから学んだこと

わたり たかし  
和足 孝之  
卒後臨床研修センター助教

島根とスウェーデン、ありそうでなかった国際共同研究が廣瀬副院長を研究責任者に始まりました。我々のテーマは「我が国で優れた総合診療医をいかに育成するか?」であります。詳細な報告は国際誌全3報に譲るとして、今回5月にルンド大学に訪問した際の衝撃をお伝えします。

臨床・研究・教育のどの分野でも国際的な結果を出せている総合医は日本にはとても少ないです。しかしスウェーデンでは本邦との人口比で約11倍の臨床研究論文を国際誌に発表しており、卒前卒後教育でも中心的な役割を担っている活躍に唖然としました。その秘訣はズバリ、\*PHCにあります。日本のように一人で診療する開業医がないスウェーデンでは、総合診療医が1施設あたり5~8人のチームで医療を提供しています。プライマリー領域の内科・小児科・整形外科・眼科・耳鼻科診療(なんと正常分娩までも!!)を(世界)標準レベルで行えるように合計8年弱もの厳しい卒後研修を終えて勤務しているようでした。

一番驚いた事は、臨床現場において臨床研究が必修化されていること。実験などは無縁の過疎地でも勤務しながら人に教えることができるまで教育しているとのことでした。学ぶべき点は数え切れず、このような長所はどうか島根に還元できないか?それが今後の我々の夢になります。

\*PHC:プライマリーヘルスケアセンター



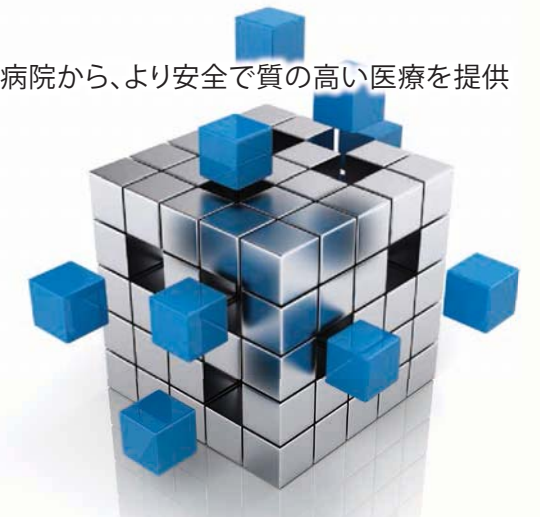
## 平成30年度 特定機能病院間相互ピアレビューにつきまして

医療安全管理部 准教授 栗本 典昭  
くりもと のりあき

特定機能病院における医療安全管理対策の強化を目的とし、「特定機能病院間相互のピアレビュー」を平成29年度から毎年実施することが定められております。ピアレビューとは、特定機能病院の職員(医療安全管理責任者等)が、別の特定機能病院と相互に、実地調査を行い、必要に応じて技術的助言を行うことです。本年度は10月12日に金沢大学医学部附属病院医療安全管理部の職員の方々に実地調査に来ていただきました。

当日は、大学病院における医療安全のために必要な事項、高難度新規医療技術又は未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等を決定する部門の運用状況、監査委員会の業務の結果及び監査委員会からの指摘への対応状況等を丁寧に網羅的に確認していただき、いくつかの改善点の指摘がありました。概ね高い評価をいただきました。

ご指摘いただいた改善点に早急に取り組み、島根大学医学部附属病院から、より安全で質の高い医療を提供し続けられるよう努力してまいります。





# お知らせ

## インスリン調節機能が加わった インスリンポンプ(携帯型のインスリン注入器)療法

内分泌代謝内科 もりた みわ  
守田 美和

インスリン治療の問題点として、低血糖や低血糖後の高血糖があげられます。その問題の対策として、今回新しくインスリンポンプ療法に加わった機能をご紹介します。

インスリンはペン型注射器の使用が多いですが、インスリンポンプを用いて持続的に皮下にインスリンを注入する方法もあります。当院でも従来のペン型注射器ではコントロールが難しい方を中心に導入しています。血糖値をモニタリングできるセンサーと合わせて使用すれば、画面に常時血糖値を表示させることが可能で、低血糖や高血糖時にアラームを鳴らすことができます。(図1)

さらに新しく、低血糖予測機能と自動インスリン調整機能が掲載されました。低血糖になってからではなく、低血糖が予測されると自動的にインスリン注入を中断し、グルコース値の回復後にインスリン注入が再開されるというシステムです。低血糖をほぼ回避することが可能であり、とても画期的な機能です。当院で使用している患者さんも予期できない無自覚性低血糖に悩んでおられましたが、この機能のおかげで低血糖が激減し安心して生活を送っていただくことが可能となりました。(図2)

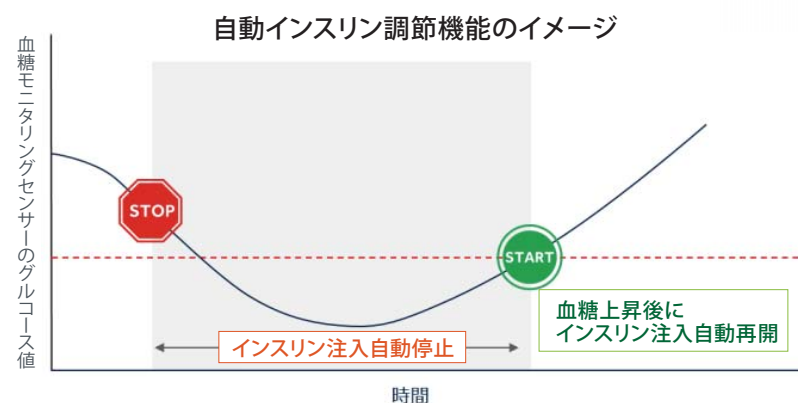
この他にもメリットがあり、従来のペン型注射器では治療が困難な方の問題を解決できる場合がありますので、お困りの方がおられましたら内分泌代謝内科にお問い合わせください。

図1



問合せ先 内分泌代謝内科 TEL: 0853-20-2381

図2

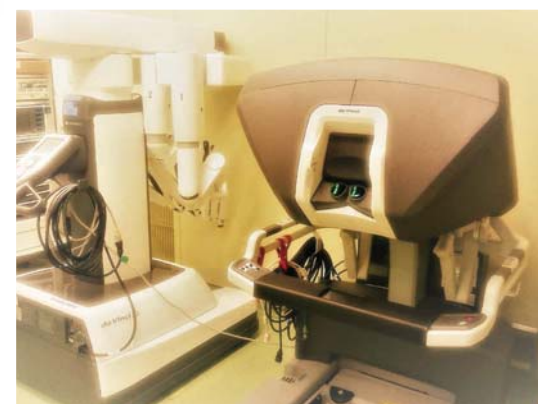


# お知らせ

## 安全で精度の高い 直腸手術への取り組みについて

消化器・総合外科 副診療科長 やまもと てつ  
山本 徹

消化器・総合外科 大腸疾患外科グループでは患者さんに負担の少ない手術(低侵襲手術)を目指して腹腔鏡をもちいた手術を積極的に行っております。しかしながら直腸癌に対する手術では、術後の排尿障害や性機能障害が起こりやすいことが問題であり、治療成績と患者さんの生活の質(QOL)を両立させるには、まだまだ超えなければならない壁があるのが現状です。それらを解決する一つ的手段として、現在手術支援ロボットを用いた高精度な手術が注目されております。今までは保険適用外だったので、施行できる患者さんが限られていましたが、本年より直腸癌手術において保険適用となり、それらの問題が解決しました。そこで我々も、より多くの患者さんに行えるように手術支援ロボットをもちいた直腸癌手術の導入を準備しています。2019年初旬から開始し、一人でも多くの患者さんに安全で高精度な手術が提供できるように計画しています。





島大病院ニュース 2018年11月

# お知らせ

飯塚病院 総合診療科

## 清田雅智先生を招いて



この度、飯塚病院総合診療科 清田雅智先生をお招きして  
レクチャーを行ないます。  
多数のご参加と活発な討論をお願い致します。

参加費  
**無料**

事前申し込みは  
不要です。



平成30年

**11月15日(木)**

18:00~20:00

ゼブラ棟 2階カンファレンス「だんだん」

・レクチャー

「バイタルサイン」

※11月15日のセミナーは島根県医師会指定の生涯教育講座 **2** 単位 です。

平成30年

**11月16日(金)**

7:30~9:00

・研修医モーニングセミナー

『研修医が「今知りたい」診断能力向上のためのTips』

主催: 島根大学医学部附属病院 / 島根大学医学部医師会

問合せ先 卒後臨床研修センター 0853-20-2714

お知らせ  
島大病院ニュース

平成30年11月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2018年11月

# ご報告



## ワークライフバランスセミナーを開催しました

地域医療支援学講座 准教授 さの ちあき  
佐野 千晶

島根大学医学部附属病院の職員対象のワークライフバランス(WLB)セミナーを、  
9月27日に開催しました。北里大学から島津明人先生をお招きし、アットホームな  
雰囲気の中、(1) WLBとは、(2) 産業保健におけるWLB、(3) 余暇の使い方、コーピ  
ングなどについて学びました。医師、看護師、理学療法士、学生さんなど男女合わせ  
て18名の参加がありました。

講演では、ワーク・エンゲージメントとって、仕事に誇り(やりがい)を感じ、熱心  
に取り組み、仕事から活力を得て生き生きしている状態について、科学的に検証す  
る内容もありました。短い時間での子供との関わり方、イライラの応急措置、アン  
ガーマネジメントといった、明日からすぐにでも役立つ話もあり、皆、熱心に聞き入っていました。

これからのWLB事業は、女性のためばかりの話ではなく、多様なライフスタイルや個人背景を受容できるよ  
うな職場づくりを目指す取り組みだと思われます。職員の皆さんのWLBに関するご意見を、講座までお寄せいた  
だきますようお願い申し上げます。



北里大学 島津 明人 先生

問合せ先 地域医療支援学講座 TEL: 0853-20-2558



ご報告  
島大病院ニュース

平成30年11月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

